

高知空港拡張問題



傍聴席に詰めかけた市民

臨時市議会は四月十日、田村など三地区から出されていた「空港拡張反対」の請願を、十七対九で不採択と決めた。  
議会に空港対策調査特委ができて二年三月ぶり、市議会の権限外とつっぱねた。  
市民の生命とくらしに直接関係のあることだけに大きな反響を呼びそうだ。

市議会に権限ない

賛成十七票、反対九票

反対請願を不採択

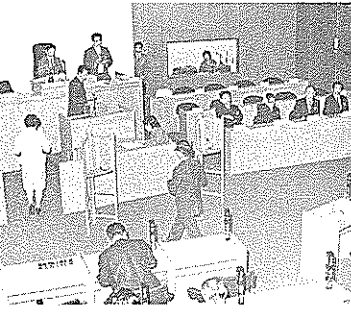


市議会は四月十日、田村・岩・大坪の三地区からそれぞれ出されている請願「高知空港拡張反対について」に結着をつけるため、臨時議会を開きました。  
空港問題は、反対住民の請願をうけて四十六年十二月、市議会に高知空港対策調査特別委員会(橋本二三委員長)を設置。騒音、用地、周辺対策などを調査。継続審議のまま約二年三ヶ月を経過。この四月四日、十人の委員のうち八人が出席して採決。四対三というわずかの差で「不採択」をきめたあと、本会議にかけられたもの

市議会の始まる午前十時には、反対市民連合など市民約百人が傍聴に詰めかけ緊迫したなか、土居議長が開会を宣したあと、橋本特別委員長が「必要性が認められても議会の権限、能力の及ぶものと及ばないものがある。地方自治法第二百二十四条の行政実例で、当該地方公共団体の権限外の事項についての請願は受理を拒むことはできないが、不採択のほかないとされている。高知空港の拡張は、国政、県政の事業で、市の事業ではない。法的に中止させる権限をあたえられていない。住民が生活基盤を失い、将来にわたって騒音公害の被害を受けることに対し、公共性のゆえをもって忍従をしいることは許しがたい。委員の中には採択すべきだとの意見もあったが機関意思の決定としては不採択とせざるをえない」と報告。  
続いて質疑、討論に入り、今井堀川、小沢の三議員が、拡張反対の立場から「世論調査や騒音調査など十分行なわれていない。なぜ結論を急ぐのか。法的な解釈にしても国際的、外交的なものは権限外としても、市に所在する空港の拡張で、市民に直接かわることだ。権限のないはずはない。権限外を理由に不採択とするのは住民不在のごまかしだ。」「地方自治法の精神をまげた解釈で、市民の唯一の権利である請願を不採択にするための理由でしかない。仮りに権限外としても、請願書の出されたとき住民に示すべきで、二年三ヶ月もたつて不採択とし、住民に請願の機会を与えないのは住民への背信行為だ。」など、きびしい意見が出されました。

市民不在の暴挙だ!

反対市民連合ら怒る



異例の無記名投票

この間、傍聴席から「何も調査していないじゃないか」「賛成討論はないか」「賛成がなければ、みんな反対じゃないか」などのヤジが飛び、再三議長から静止される場面もありました。  
結局、賛成討論のないまま、採決に入り、議員の要求で異例の無記名投票にすることを決めた。特別委員会の不採択に、賛成十七、反対九で委員長の報告通り、不採択と決めました。  
市議会の結論が「不採択」と出

たことで、反対市民の動揺もはげしく「住民サイドで調査、市民の立場で結論を出す」という特別委員が、三月二十五日、急に権限外をもち出し、不採択としたのは市民不在の暴挙だ。市民の前で賛否の意思表示もできず、無記名投票とはなにかと「怒り」をぶちまけていました。  
昨年は市長選挙などがからまり停滞していた空港拡張問題ですが「拡張絶対反対」を旗印に多数の市民から支持された杉本市長、市

くらしの中から憲法を考えよう



5月3日憲法記念日

わたしたちは憲法を日常のくらしや市政にかかわりない何か遠い存在のように思いがちですが、まさに、市の政治をよくするには、市の政治のもとになっている憲法を知ることが大切であり、くらしの中から憲法を考えていくことが大切です。

惨たんたる焼土の中から第二次世界大戦の反省として、不死鳥のように新しく飛び立った憲法、憲法の柱である国民主権、基本的人権、平和主義を発展させ、憲法を「くらしの中に生かし、育て、守る」ために市民みんなで考え行動したいものです。

など、国の計画している五十年三月供用開始をまえに、いろいろの問題をからませながら、市議会の不採択決定で、新しい局面を向かえたといえそうです。  
【不採択となった請願】  
■第一号 昭和四十六年十月二十二日 上大坪地区期成同盟会代表者藤田尚敏ほか一千二百九十九人(要旨)ジェット機による航空公害で住民の生活はもとより健康、生命も危険におびやかされる。飛行発着ルートには学校、保育などの文教施設をはじめ医療、行政、社会福祉などの諸施設が多数あり悪影響ははかり知れない。公害から、いのちとくらしを守るため市議会が拡張整備計画を阻止された。  
■第三号 四十六年十二月六日 拡張反対期成同盟 代表委員有沢実ほか四人(要旨)祖先伝来の家屋、農地をとりあげ、生活基盤を失わせ、住民に終生騒音の苦痛を与える。一名の犠牲者も出さないといい県の説明は納得できない。市議会が拡張計画を阻止された。  
■第六十四号 四十七年十一月十七日 岩村地区期成同盟会 会長田所章ほか六十八人(要旨)ボーイング737試験飛行を契機に地区内全戸のアンケートの結果七五割が強い反対だ。社